



Doshisha University Academic Repository

同志社大学学術リポジトリ

2008年度春学期修士論文・課題研究テーマ一覧

著者	同志社大学大学院総合政策科学会
雑誌名	同志社政策科学研究
巻	10
号	2
ページ	225
発行年	2008-12-20
権利	同志社大学大学院総合政策科学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000011594

2008年度春学期修士論文・課題研究テーマ一覧

2008年度春学期において、修士論文・課題研究を提出し、修了が認定された修了生について、その氏名と研究テーマを以下に示します。

氏名：中村 伸也

**題目：高槻市教育委員会・技能系現業部門の
業務請負会社設立**

梗概：題目通り、技能系現業部門の請負会社設立の課題研究として学校用務員業務の請負会社の設立を思い立ち、その現実に向けて準備検討したものを記載した。そもそも、その目的は自分の現在の職業・校務員の仕事の奥の深さに驚くとともに、非常勤化によって長年培われた多岐に渡る洗練された技能技術が継承されないとの危惧から組織で受皿とできないかと言う発想だった。教育環境整備という社会的に非常に重要な、しかし過去においては「小使さん」と半ば蔑視された職業を今一度見直すことによって、地方財政の削減もしながらより質の高い作業をこなせるような工夫をし、株式会社形態により業務請負会社の実現可能性を探った。

おけるコーポレート・ガバナンスを参考にし、スポーツ団体のガバナンスを確立させる条件を明らかにすることによって、スポーツが文化として定着し発展することをめざしている。

氏名：藤島 みち

題目：スポーツ団体のガバナンス

一望ましいスポーツ振興のために

梗概：本論文の目的は、望ましいスポーツ振興のためのスポーツ団体の組織の構築について検証することである。スポーツは、青少年への教育的効果、高齢者の健康維持、コミュニティの活性化など、我々の日常生活に影響を与えている。そのようなスポーツの振興のためには、スポーツ団体が重要であるが、多くのスポーツ団体は慣例的な組織の構築を進めている。また、改革に向けて努力はしているものの、組織の弱体化や世界での成績低迷に直面し、発展普及に苦慮しているように思われる。そこで、企業に